

制の整理を斷行するにありとす。

由來我邦の官制は歷代内閣が人の爲めに官を設くるの惡弊を踏襲し來りたる結果、諸官廳は中央地方の別なく必要以上に膨大し、必然整理の餘地あるに拘らず之に一大斧鉞を加ふるの英斷に乏しきのみならず、却て諸種の口實を構え不急の官制を制定して、黨人の獵官熱を充たさんとするに至つては其暴狀實に驚くの外なしとす。加之昭和八年度政府豫算に依れば、政府が地方廳及民間の各種事業に對し年々附與しつつある補助金は總額二億三千萬圓、又各種事業繼續費は總額五億三千萬圓にして、此巨額の國費は政黨政治家が財閥と利權の交換を條件とし、或は選舉區民の歡心を迎へんが爲めの好餌として惡用濫費せられ、又帝都の中央に薙々として聳ゆる世界無双を以て彼等の誇りとする國富民力に不相應なる新議院並諸官廳舍等の豪奢なる大厦高閣の建築等、非常時局に於ては全く不急の土木工事費に充當浪費せらるるものにして、昔時織田豊臣及徳川等が其居城の構築に莫大の國帑と人力とを投じて國民を塗炭の苦しみの中に陥れ、其怨みを買ひたると何等擇む所なし。斯る政府の放縱なる國費の濫用を默過するに於ては、政府及地方自治團體の專横暴恣は益々募りて苛斂誅求を恣にして國民は塗炭の苦より免るゝこと能はざるは實に賭易きの理なり。然り而して政黨政治家の横暴なる國家の浮沈安危に關する國防を目して生産的施設と稱し、國庫の窮乏を軍費の削減に依つて補填せむとするの惡辣なる政策を弄し、政治的野心を有する我陸軍の巨頭と氣脈を通じて、日露戰役以來我先輩が明治天皇の御偉業を奉承して苦心慘澹、辛うじて建設し得たる我陸軍に惜氣もなく大斧鉞を加へて、前後二回に亘り約八師團に相當する兵力を縮少し、又過

般の倫敦會議に於て無氣力なる我海軍の巨頭に彈壓を加へて補助艦艇の不法不利なる比率を英米と誓約して、我國防上千歲拭ふべからざる一大缺陷を招來せる等、是れ皆眼中政黨あつて國家なき政黨政治家が國防を、黨利黨略の犠牲に供したるものにして、當時忠勇一徹の帝國軍人の激昂憤怒の標的となりしことは、今尙吾人の記憶に新なる所なりとす。

翻つて對外關係を考察するに一層吾人の心膽を寒からしむるものあり。即歷代内閣の因襲たる軟弱退嬰外交は、大勢順應國際協調主義を以て終始し、爲めに巴里平和會議に於て列國環視の下に人種平等案に慘敗して以來、或は青島の無條件還付となり、或は米國の脅嚇に耐へずしてヤップ島に於ける電氣通信機に關する權利の讓與となり、或は九ヶ國條約の締結に依り滿洲に於ける特權の喪失となり、或は米國の壓迫により日英同盟の破棄となり、或は倫敦會議に於ける屈辱的海軍協定の締結となり、將又當面の滿洲事變勃發當時外務當局の錯覺に依り、圖らずも國際聯盟及米國の不當干渉を招來し、而も聯盟に於ける窮境を一時脱せむ爲めの窮餘の一策として、聯盟の滿洲問題認識不足を理由に自ら進んで調査委員の派遣を提案して、反つて禍根を後日に貽し、遂に我代表引揚の主なる動機を醸成したるが如き、或は米國と務卿の一喝に辟易して、錦州攻撃の爲蹶起交戰中の關東軍に我戰史上に前代未聞の敵前退却を強要して、我皇軍の光輝ある歴史に千歲拭ふべからざる瑕瑾を印したるが如き、外交上の失態は是亦擧げて數ふるに遑あらざるなり。

我忠勇なる陛下の軍隊は、年餘に亘り寂寥たる滿洲の荒野に凜烈たる寒氣と瘴癘とを冒し、幾多の犠牲を擲け